２０１０－２０１１年度国際ロータリー第２７９０地区

第１３分区　ロータリー情報研究会

テーマ：「私たちは何故週１度ロータリーに集うのか」

報　　告　　書

日時　２０１０年９月１１日（土）１３：００～１５：３０

会場　野田東武ホテル

主催　野田ロータリークラブ

地域を育み、大陸をつなぐ

作成　野田ロータリークラブ

プ ロ グ ラ ム

13：00	開会宣言	
13：01	ロータリーソング(奉仕の理想)	
13：04	地区役員紹介	野田ロータリークラブ会長　髙梨昇一郎
13：07	開催主旨挨拶	第１３分区ガバナー補佐　髙梨　　茂
13：12	ホストクラブ会長挨拶	野田ロータリークラブ会長　髙梨昇一郎
13：17	地区職業奉仕委員長挨拶	パストガバナー　土屋　亮平
13：22	地区クラブ研修委員卓話	地区クラブ研修委員　安蒜　俊雄
13：52	休憩	
14：02	テーブル毎に討議し、意見交流	（５０分）
14：52	テーブル毎の意見発表	（１クラブ５分）
15:25	総評挨拶	第１３分区ガバナー補佐　髙梨　　茂
15：30	閉会宣言	

参 加 者 名 簿

国際ロータリー第２７９０地区

職業奉仕委員会　委員長　土屋　亮平

職業奉仕委員会　クラブ研修委員会　委員長　海寶　勘一

委　員　安蒜　俊雄

委　員　山下　清俊

職業奉仕研修委員会　委　員　中山　政明

第１３区ガバナー補佐　髙梨　　茂

参加クラブ

流山ロータリークラブ　６名

野田東ロータリークラブ　６名

流山中央ロータリークラブ　８名

野田セントラルロータリークラブ　７名

野田ロータリークラブ　７名

参加者人数　４０名

テーブルＡ　青木　修　海老原功一　戸辺　勝次　遠藤　育夫　岡田　茂　中野祐三郎

テーブルＢ　遠藤　博一　木村　幸浩　沼野　秀樹　及川　義明　遠藤　茂雄　永田　和子　小森谷　渉

テーブルＣ　田口　佳子　青木　一郎　井谷　秀人　中村　文隆　福井　三郎　森田　精司　冨山　好夫

テーブルＤ　渡辺　昭　熊坂　牧子　谷口　寿雄　古賀　智行　野口　宏一　飯塚　博　染谷　栄

テーブルＥ　髙梨昇一郎　湯浅　博之　上原　進一　岩佐　悳司　渡會　顯　勝田　茂　下重　正子

2010・11年度「ロータリー情報研究会」開催趣旨

第13分区　ガバナー補佐

髙梨　茂

皆様こんにちは。本日はお忙しいなか第13分区情報研究会にご参加くださいましてありがとうございます。

本日はパストガバナー・土屋亮平地区職業奉仕委員会委員長、海寶地区クラブ研修委員会委員長、安蒜地区クラブ研修委員会委員、山下地区クラブ研修委員会委員、中山地区職業奉仕委員の方々においで頂きありがとうございます。

私達は、今までの情報委員会は入会3年から5年未満の方に向けた情報提供を行ってきたと思います。

昨年は2790地区を4分区に分け行われました。今年度の織田ガバナーは各分区で行い全会員を対象にとの方針です。

本日は当分区では、会長、幹事、会長エレクト、副幹事、職業奉仕委員、R情報委員長の他にクラブの研修リーダー的な方々に参加をお願いしました。

地区職業奉仕委員長・土屋様の御挨拶、安蒜地区クラブ研修委員の卓話の後で慣習化されてしまっているクラブ例会の意義、私たちは何故週に一度ロータリーに集うのかというテーマで各クラブでディスカッションをし、各グループで討議をまとめて頂きたいと思います。

本年度、織田ガバナーは4大奉仕、特に職業奉仕の取り組みを最枢要とされています。限られた時間ではございますが、職業奉仕活動についても討議していただきたいと思います。

この情報研究会が、今後意義のある奉仕と友愛の活動の参考にして頂ければと思います。このレポートを各クラブに持ち帰り情報委員会のオリエンテーションを行って頂ければと思います。宜しくお願い致します。

ホストクラブ会長挨拶

野田ロータリークラブ
会長　髙梨昇一郎

皆様、改めまして今日は！

本日、ここに「国際ロータリー第２７９０地区第１３分区ロータリー情報研究会」を開催するに当たり、主催クラブを代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、私共の「ロータリー情報研究会」のために、国際ロータリー第２７９０地区、職業奉仕委員会より土屋委員長様をはじめクラブ研修委員会海寶委員長様、安蒜委員様、山下委員様、職業奉仕研修委員会中山委員様の５名の地区役員の皆様には残暑の中をまた、ご遠方のところを、おいでいただき誠にありがとうございます。
心より御礼申し上げます。
また、１３分区各クラブの皆様、ご出席いただきありがとうございます。

皆様には、私共野田クラブは、常日頃より大変御交誼をいただいておりまして、この場をお借りいたしまして改めてお礼を申し上げる次第であります。

さて、今年度の織田ガバナーは、「職業奉仕こそロータリー活動の根幹を成すものであり、職業奉仕の理念こそがロータリーの目的である」と申されております。
その理念普及のためと申してよろしいと存じますが、昨年までは複数の分区が合同して開催しておりました「ロータリー情報研究会」が、今年は各分区ごとに開催されることになりました。

本日の研究テーマはご案内の通り「私達は、何故週に一度例会で集うのか」であります。

本日の」この研究会を実りある会とするために、皆様で活発で忌憚の無いそして本音のご意見を大いにお聞かせいただきたくお願い申し上げる次第であります。

当研究会の開催に当たりましては、至らぬ点が多々あろうかと存じますが、ロータリーの友情に免じてご寛恕いただければ幸いに存じます。

なお、研究会終了後、ささやかではございますが、懇親会の席を用意させていただいておりますので、是非そちらの方にも皆様こぞってご出席いただきたくお願い申し上げます。

結びに、本日の研究会が、土屋委員長様はじめアドバイザーの皆様のご指導の下、成功裏に終了することを願うと共に、国際ロータリー第２７９０地区並びに当第１３分区の愈々の発展と、本日ここにご出席の皆様の益々のご活躍ご健勝を心よりご祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

第13分区ロータリー情報研究会開催に当たり

第2790地区職業奉仕委員会

委員長　土屋　亮平

国際ロータリー第2790地区第13分区ロータリー情報研究会の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年度のロータリー情報研究会は、高梨　茂ガバナー補佐様のご指導の下、高梨　昇一郎野田ロータリークラブ会長様を始めとする第13分区の皆様のご協力を戴き、情報研究会がこの様に立派に準備して戴きましたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度の織田ガバナーは5大奉仕部門の内、職業奉仕が最も理論的であり、倫理的であると結論づけられました。その様な観点から、今後益々増えることが予想されるであろうＲＩからの指示、並びに諸々の案件につきまして、各クラブがそれらに就いて、独自に、その是々非々の判断を下す必要性が想定されます。それ等に対応すべく、各クラブの職業奉仕委員会の中に『クラブ研修委員会』を設置することを要望され、常日頃から研鑽を積んで戴きたいと、断っての要請でございます。

特に、織田ガバナーは今年度、各分区毎に開催されますロータリー情報研究会を地区の職業奉仕委員会が担当するように支持され、テーマも「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」と示され―『出席なくしてロータリーなし』と言いますが―

出席の重要性を再認識して、真のロータリーライフを構築して戴きたいとの思いと拝察いたします。

出席と申しますと、これはクラブ奉仕の分野ではないのか？

今更そんな当たり前のことを議論するのか？

等のご意見も聞きますが、ロータリークラブの定例会は些か異にします。例会と言っても一連のセレモニー、食事、卓話、それ以外にロータリーの例会にはもっと深遠なものが存在しなければなりません。それを本日掴み採って戴きましょう。それこそが、職業奉仕を理解する上での大前提であるからであります。

第13分区のロータリアンの皆様、今日の研究会は皆様の研究会であります。

敢えて言わせて頂けば、地区の職業委員の任務は、職業奉仕への道案内人に過ぎません。どうぞ活発なるご意見を戴き、楽しく、実り多い研究会になりますことを期待致します。

混迷する社会で生き残る道は、唯一つ、職業奉仕の実践『大道無難』に尽きます。

ロータリー情報研究会　卓話

2010-2011　地区職業奉仕委員会　クラブ研修委員会
安蒜俊雄

テーマ《私たちは何故週一度ロータリーに集うのか》

ただ今、ご紹介頂きました地区職業奉仕委員会の小委員会でありますクラブ研修委員会の委員安蒜俊雄と申します。松戸東ＲＣ会員で、職業分類は公認会計士でございます。

織田ガバナーから、クラブ研修委員会に対しまして、各地区で開催されるロータリー情報研究会の主管をするようご要請を頂きました。テーマもご指定いただきまして、《私たちは何故週一度ロータリーに集うのか》です。ロータリーの理念に関わる大変重要なテーマであると思っております。
後ほど、皆様方には、各テーブルにて、このテーマで討議をして頂くことになっております。

その前に、これまでにロータリーで学んだことをお伝えし、後ほどのグループ討議の参考にして頂けると幸いです。例会の役割は、様々な視点からとらえることができると思いますが、本日は職業奉仕の視点からお話しさせていただきます。よく“職業奉仕は難しい”
とお聞きしますので、実践レベルでの見える可を試みたいと思います。そして例会との関わりをも考えて見たいと思います。

はじめに、ロータリーが大事（理念など）にしていることをおさらいさせて頂きたいと思います。解釈にご異論のある方がいらっしゃいましたら、今日のところは、安蒜の主観であるとご理解頂きたいと思います。

ロータリークラブは 1905 年に、アメリカ、シカゴで誕生、1 業 1 会員制と規則的例会出席の原則が確立され、1912 年には、ロータリーの綱領とロータリーの標語が採択されました。その後、ロータリークラブは 105 年間にわたって継続、成長・発展し、現在 200 以上の国と地域、33,855 クラブ　会員 122 万人余を擁しております。

ロータリーに関する基本的な考え方を確認させていただきます。
【ロータリークラブは】：職業倫理の向上を諮る同志の集まり　（土屋委員長より）
【ロータリーの目的は】：職業倫理を高揚してゆくこと　（織田ガバナー、ガバナー月信 7 月号：ﾛｰﾀﾘｱﾝの矜持＝ﾛｰﾀﾘｰの綱領→（ﾛｰﾀﾘｰの綱領は、・・・→「ﾛｰﾀﾘｰの目的は社会に価値のある企業活動の基本として奉仕の理念を企業に導入し、育んでゆく、特に・・・。」と読み替える。）

【ロータリークラブは何を目的としている集団ですか】と問われることがあります。
ロータリー運動は、一口にいって、人生を如何にいきるべきかを問い続ける専門職業に携わる者又は企業経営者の生涯学習の場です。
会員は一業一会員を原則として週一回の例会をもっています。この運動の目標とするところは、会員相互の交流を通じて自己啓発を図り、道徳水準を高め、その心をもって自らの職業を通じて社会に貢献することを目指している倫理運動です。

平素の行動の**行動基準として、【四つのテスト**（自己評価の観点）**】**を示し自己抑制を求めています。
この四つのテストについては、佐藤千壽パストガバナーの次のような解説がございます。
・　ロータリー精神を一番わかり易く表現しているもの
・　Service above self や One profits most who serves best という哲理を、具体的行動指針として置き換えたのがこの「四つのテスト」、これこそロータリーの真髄
・「近江商人の家訓“売り手よし、買い手よし、世間よし”の“三方良し”は、ロータリーの四つのテストを全部包み込んでいる」
・これをもっと煮つめて一番短い簡単な言葉で表現しろ、と言われたら、「相手の立場になって考える」ということ

【二大標語】

・ **超我の奉仕**（ Service above self ）　　**ロータリーの哲学**

自分の利益だけに没頭することなく、自分の正当な利益だけを受け、先ず奉仕（　＊奉仕の心で、利己と利他の調和）せよ。

二宮尊徳「一円観」（善と悪、勤勉と怠惰、真面目と遊び心、貪欲と奉仕）

・ **最もよく奉仕する者、最も多く報いられる**（ One profits most who serves best ）

実践的倫理原則

職業奉仕理念

“情けは人の為ならず”（人に情けをかけておけば、いずれめぐりめぐって自分のためになる。）

成功する商売の道は奉仕することにかかっている。どんな取引でも買手と売手双方に利益するものでなければならない。

【職業奉仕】: 自己の職業にロータリー精神（奉仕の精神）を傾注させ、世の中に役立たせること〈土屋委員長より〉

【奉仕の理想】: は「入りては例会で“超我の奉仕”のこころを磨き、出でては“最もよく奉仕する者、最も多く報いられる”のこころで奉仕の実践をしよう」　ということ

【職業奉仕→行動（実践）レベルでの理解（見える可）】を試みたいと思います。

別紙のとおりですが、

①お客様に喜ばれて　②社員がいきいきと仕事をして　③利益を出し　④社会貢献する

この４項目を同時に実現するための実践行動ということができると思います。

さて、1905 年創立、1923 年のロータリーの理念の確立後、理念や週一度例会開催の原型に大きな変更がなかったように認識しておりますが、1905 年当時及び 20 世紀初頭をご一緒に想像してみたいと思います。

ロータリーの誕生についての一般的見解、としては；

「友」より　　ロータリーとは　　「ロータリーの誕生とその成長」　に次のように書かれております。

20 世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道徳の欠如が目につくようになっていました。・・・青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、・・・・。

創立時及び 20 世紀初頭のアメリカの社会・経済を想像すると、正に激動の時代、乱世であったと思われます。無法・腐敗の街シカゴ、金儲けのためなら人殺しや、不法侵入、不払い、計画倒産、取り込み詐欺、夜逃げ、およそ考えられる限りの悪知恵競争を繰り広げていたということです。“騙される方が馬鹿”の道徳観が公然とまかり通っていたようです。アル・カポネ（シカゴ暗黒街のボス、ギャングスター1899 年生まれ～1947 年没）という人物もいました。無秩序な自由競争の結果発展した大企業の放任阻止のため反トラスト法の制定がありました。

日本の歴史に関係することとして 1905 年はポーツマス条約（日露戦争の講和条約）締結ですとかがあります。

昨今、ギリシャ危機をはじめとして世界の金融・経済は、今非常に大きな変化の荒波を受けています。生産者人口の減少（少子高齢化）、デジタル化や、インターネット時代が急激に進行している時代でもあります。そんな中で、既存の市場が消えていく事態に直面している経営者が少なくないようです。今まで売れてたものがさっぱり売れなくなる。今までの顧客がぱったりいなくなる。特に最近は、単に安ければ売れるというものではなく、顧客のニーズが非常に多様化しており、対応に苦慮している状況もあります。もちろん、業種業態を変え成功している企業も結構多いと思われます。さらに、リーマンショック後の景気低迷下でも、増収かどうかは兎も角として、史上最高益を出されている企業もあります。

これは、要するに、世の中が急速に変化しているということであって、変化を嘆いたり変化を止めよう思っても、それは不可能なことです。このようなときに、自分がいかに対処するかを考え、具体的に行動していくことが経営（環境適応業）というものだといわれます。

さて、先輩から教えていただいたことですが、常々、こういうイメージで経営をすることにしております。「お客様に喜ばれて、社員がイキイキと仕事をして、利益を出し、社会貢献をする。」これは、ロータリーの職業奉仕の理念（最もよく奉仕する者、最も多く・・・・）を一段行動レベルへ分解したものともいえると思います。この経営のイメージを念頭に置きますと、過去約１０年の間に起きた様々な企業不祥事は、隠蔽工作も絡み、とてもお客様に喜ばれるものではありません。また、不祥事の発覚も社員からの情報提供が大半とも聞いております。とてもイキイキと仕事をしていたという状況ではなかったようです。

正に、『「天網恢々、疎にして漏らさず」悪事を冒した者は天罰をのがれることはできないということ。』と思います。もちろん、利益を出し、社会貢献することに、純粋さを欠いていたと思われます。不祥事を起こした企業名を挙げるときりがありませんが、中でも、伊勢の赤福が製造年月日、消費期限等の偽装をし、営業禁止になったことは残念でなりませんでした。

素晴らしい経営姿勢で経営されていた創業 300 年以上の会社と認識しておりました。5 月の朔日餅のときに本店を訪れたことがございます。社長は、伊勢ロータリークラブの会員であったようです。この経営のイメージに照らしますと、一部が欠落していたと思われます。いつ誰が見ているかわかりません。1 億（国民）総監査人の時代ですから、法律遵守は基本です。お客様に全く喜ばれないことをしたのです。

現下の経営環境にあって経営者にもっとも必要とされる能力は、コミュニケーション能力だといわれます。すなわち社員、取引先、株主、顧客など、さまざまな立場の人たちとしっかりコミュニケーションをとって現状を把握し、みんなの思いや実力の発揮できる場がどこにあるかを前提に、会社の戦略・戦術を示すことが求められるようです。建前・形式の時代から本音・本質の時代への現状認識が必要のようです。

ここで、もう他界されておりますが、あるロータリアンが経営されていた会社の経営理念をご紹介させていただきます。職業奉仕の理念を格調高く表現されている経営理念であり、「お客様に喜ばれて、社員がイキイキと仕事をして、利益を出し、社会貢献をする。」がしっかり醸し出されていると思います。会社の存在意義、行動指針、社風、それらの価値観の共有、リーダーシップ、コミュニケーション、様々な重要事項が盛り込まれていると思います。経営資源という言葉がありますが、人、物、金、情報、社風です。正に、この理念の下での社風を大事にされていたように感じます。〈別紙参照〉是非、ご一読ください。1960 年、売上高が 10 億円にも満たない町工場のような状況ときの経営理念の策定であったようです。2007 年 3 月期は売上高 579 億円経常利益 93 億円だそうです。

「日々に新たに、また日に新た（ダイヤモンド社）」という書籍に紹介されております。ホームページで確認しましたところ、現在も全く同じ経営理念です。

経営理念の中にも謳われておりますが、「日に新たに、日々に新たに、また日に新たなる・・・」は中国の格言「（殷（いん）王朝　初代湯（とう）王「苟（まこと）に日に新たに、日日に新たに、又日に新たなり（今日の行ないは、昨日よりも新しくよくなり、明日の行ないは、今日よりもさらに新しくよくなるように日々修養に心がけなければならない）」、“新たにする”は“学ぶ、修行する”ことだそうです。

私たちの先輩・友人のロータリアンの中には素晴らしい経営をされている方々が、身近に沢山いらっしゃいます。**師は、クラブ内に、そして隣に**座っていらっしゃいます。

昨今は、先行き不透明、変化の時代、手本がない時代です。潜在能力を開花させながら新しい挑戦をしていく以外、道はないといわれます。これから新たにどんな商品・サービスを開発できるだろうかと

か、新しい顧客をこういうやり方で開拓してみようとか、潜在的な可能性を考えてさまざまに試行錯誤していく必要があるのではないでしょうか。

時代を大きく見渡せば、今は「乱世」とよんで良いと思います。現下の経済は超円高、デフレです。この乱世は、1985 年のプラザ合意（為替協調介入、超円高）から始まっており、60 年続くともいわれます。物事が昨日と同じように動く世の中ではなく、今日は昨日とはまったく違うことが平気で起こる時代です。したがって、乱世においてこそ、勉強が必要だといわれます。

では、何を勉強すればよいのか。リーダーシップ、マネージメント、技術のこと、世の中　の情勢など。さらには人としての生き方や哲学なども大変重要になってきます。これを　しっかり勉強しておかないと、非常に大きな変化に直面したとき、狼狽したり短絡的な行動をしてしまって、成功から遠ざかってしまうことが多いようです。

また、乱世においては、実学はあまり役に立たないといわれます。即戦力とされる人材が、なかなか成功を持続できなかったり、組織の価値観を乱すことになったりします。乱世であればあるほど、基本に立ち返って経営の基礎を固め、特に、社内の価値観（思想）の共有が重要項目です。本来の自分の使命を果たすよう、価値観の共有を図り、経営者も社員も行動していかなければ、未来は開けないといわれます。

今、私たち職業人は、1905 年当時と同様に、激動の乱世の中にいるとご認識をいただいて、例会の意義を考えてみたいと思います。

一週間、私たち職業人は、厳しくも慌しい俗社会の中で、職業に専念する毎日なのですが、時には適当な方便もつきながら、利己主義に陥りやすく、様々にけがれた身になって、ホームクラブの例会に出席してきます。

例会の目的は、癒しの場・憩いの場であるのと同時に、異業種の仲間達との親睦や職業上の発想の交換を通じて、相互に分かち合いの精神による事業の永続性を学びあい、友情を深め合い、反省や志の再確認をし、自己心の改善を図ることにあり、その結果としての奉仕の心、即ち、思い遣りの心が育まれてくるのだと思います。

米山梅吉翁が語った『ロータリーの例会は人生最高の修練の場』とは、会員同士が切磋琢磨して、自己研鑽に励む貴重な修練の場でなければなりませんから、例会運営にあたる会長と幹事やＳＡＡは、会員が職業に従事すべき貴重な時間を割いていることに対して、例会に出席するメリットを、沢山与える責任と義務を認識したいものです。

同時に、出席会員は；

① 例会は、会員各自によってつくられる。
② 「貴方の出席が例会を変え、ロータリーを変え、そして、貴方と貴方が関わる家庭・職業・社会生活を豊かにする。」、すなわち、『貴方の出席が、・・・貴方を豊かにする。』

の意識をもって、出席していただきたい（・・・したい）と思います。

「人は、人の中でしか育たない。」

そして、乱世にあっては、「何気ない会話の中から、大きなヒント・気づきがある。」こんなことを思う昨今でございます。今こそロータリーの草創期に立ち還り、例会にて会員同士が職業奉仕を語り合い・学びあう（意義ある卓話を含む。）ことが、真のロータリー運動の推進につながり、ひいては、新しい会員の増強にも結びつくものと、大いに期待しているところです。

ご静聴ありがとうございました。

平成 22 年 10 月 08 日
国際ロータリー第 2790 地区　第 10 分区ロータリー情報研究会

2010-2011 地区 職業奉仕委員会
クラブ研修委員会　安蒜俊雄

【二大標語】

・ **超我の奉仕**（ Service above self ）　　**ロータリーの哲学**

自分の利益だけに没頭することなく、自分の正当な利益だけを受け、
先ず奉仕（　＊奉仕の心で、利己と利他の調和）せよ。

二宮尊徳「一円観」（善と悪、勤勉と怠惰、真面目と遊び心、貪欲と奉仕）

・ **最もよく奉仕する者、最も多く報いられる**（ One profits most who serves best）

実践倫理原則
職業奉仕理念

“情けは人の為ならず”（人に情けをかけておけば、いずれめぐりめぐって自分のためになる。）と同義である。
成功する商売の道は奉仕することにかかっている。どんな取引でも買手と売手双方に利益するものでなければならない。

【職業奉仕】自己の職業にロータリー精神（奉仕の精神）を傾注させ、世の中に役立たせる
〈土屋委員長より〉

【奉仕の理想】「入りては例会で“超我の奉仕”のこころを磨き、出でては“最もよく奉仕する者、最も多く報いられる”のこころで奉仕の実践をしよう」ということ。
〈ｶﾞﾊﾞﾅｰ月信 7 月号〉

【職業奉仕→行動（実践）レベルでの理解】

① **お客様に喜ばれて**（誇り・使命感＋商品・サービス、接遇。＝地域貢献）

② **社員がいきいきと仕事をして**（理念の共有、人間性向上、社風、研修、待遇）

③ **利益を出し**（適正利益。存続・発展のための再投資可能な利益留保）

④ **社会貢献する**（税金。社会の抱える問題解決のために金品等提供若しくは商品・サービスの開発→新たにお客様（社会）に喜ばれる。／同業者、異業者、世間一般へ経営姿勢を実証し、明るい社会づくりへの一助）

【経営の理念】１９６０年　千住金属工業㈱

会社は社員共同の生活の源泉であり、人間完成の道場である。
されば先ず第一に会社の発展がそのまま社員の幸福――物心両面の成長に直結することを念願する。他方、会社存立の基盤たる現代社会は、日々不断に会社が優れたる有用の製品を世に供給することを期待している。我等は社員と社会のこの二つの立場における要求を調和充足しつつ、その過程を通じて人類の平和と進歩に寄与し、もって公器としての使命を果たすことを経営の理念とする。

然らば、この理念のもとに結集し、会社発展の推進力となり、自己の人生を十二分に開花結実せしめるための必要にして且つ十分なる条件は何か――いわく実力、いわく誠実、いわく闘魂、まことにこの三カ条こそあらゆる生活の場における三種の神器である。

またこの三条の満たされるところ、そこにまたおのずから明るい職場、平和な職場、活気溢れる職場が築かれるであろう。この職場を原動力として、日に新たに日々に新たに、また日に新たなる開拓者精神を推し進めるならば、あらゆる苦難を乗り越えて会社は成長発展を続けてゆくものと確信する。

願わくば我々は共にこの理念を身につけ、活力あらしめ、そして我等が職場に平和と友愛の橋をかけ、明朗にして健康なる生活の建設に邁進しようではないか。

参考

【経営理念】１９６１年　京セラ

全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること。

テーブル毎の意見発表

Ａテーブル　発表者　青木　修（流山ロータリークラブ）

テーマ「私たちは何故週に一度ロータリーに集うのか」

・ロータリー＝週一回の例会

・職業分類による各業界・業種を代表するロータリアンが週に一度の例会に集まる。

・ロータリアンの親睦・信頼関係は例会への出席から成る。

・ロータリアンの企業は、成功しなければならない。

・例会では、いろいろな情報交換や卓話を聞くことができる。
　これらは自己研鑽の場となり、事業成功にも繋がる。

・クラブのプログラムが魅力的なので、例会に足が向く。

・ロータリーの良さを知れば（理解するほど）、例会出席が楽しくなる。

・例会に出ると元気がもらえる。

ロータリーの本質や理念を良く理解する、また、理解させることが大切である。

例会（プログラム）の充実

↓

例会出席アップ。

↓

多くの会員が集えば、例会の雰囲気が良くなる。

↓

退会防止・会員増強に繋がる。

今回の情報研究会は、入会歴の浅い会員ではなく、会長・幹事、会長エレクト・副幹事を中心としたメンバーが中心である。クラブの中心（役員）が、今回のテーマ「私たちは何故週に一度ロータリーに集うのか」を再確認・熟慮しクラブ会員をリードしていかなければならない。

Ｂテーブル　発表者　遠藤　博一（野田東ロータリークラブ）

テーマ「私たちは何故週に一度ロータリーに集うのか」

例会は、

・職業優先

・人格形成

・職業人として仕事に役立てる

・親睦と奉仕・例会を有効に使う

・皆出席なので消えないようにしている

・皆出席だと例会が楽しくなる

・女性の会員は、男性の知人が多くなる

・職業奉仕としてビジネスに結びつけるー成果が十分に戻ってくる

・どんな団体かと聞かれたら奉仕団体という事で入会を勧めている。

・経営理念が作られる

・気付き、毎回１つの気付きを探せば１年で４８個の気付きが見つかる

・組織が人生道場

・奉仕する者に最大の利益あり

・自分のためになるものを身につけたい

・新入会員のためにアドバイスが必要

・１００％出席出来なくても話題を作って話し合いをすればいい

いろいろな意見がありましたが、基本は会員の企業活動の根本に奉仕理念をおいて、人格形成。向上の場にする事にあると考えます。

Ｃテーブル　発表者　田口　佳子（流山中央ロータリークラブ）

　私達は、何故週に一度ロータリーに集うのか。
集まることにどういう意味があるのか考えてみましょう。
例会に出席することによって、得るものがあるかどうか。
親睦はもちろんであるが、卓話に力を入れてみてはどうか。
会員の卓話を中心に外部卓話も含めて、人生の在り方を考え、哲学的思考をしてみてはどうか。
　職業奉仕とは自分の事業のことです。週に一度集まって、仕事の話しをしてみましょう。会員自身がロータリアンとしての誇りを持ち、ロータリー活動が対外的にも評価を得られるよう、切磋琢磨しなければなりません。
伝達方法として週一回集まる習慣を身につけましょう。
意識の高さが、週に一度集うことにつながると考えます。

Ｄテーブル　発表者　渡辺　昭（野田セントラルロータリークラブ）

①　「ポール・ハリスが決めたことでしょう。」と……。
②　習慣づけることによって、自らの１日の職業の配分をきちっとできる。
　　バランス良くできることによって自己研鑽も積める。
③　週１回と回数多く集まることによって、
　　卓話に「研鑽」以外のことも選択できる。
④　週に１回集まることは、他の団体とは違う。
　　目的を持った人達の集いで、同業の人達以上に仲良くなれる。
⑤　週に１度としておくといつでもどこかにメイクアップできる。
　　ちなみに１３分区の５クラブは、月～金毎日例会があります。
　　（ポール・ハリス達は、各自の事務所で持ち回りにしていたので
　　ロータリーと名付けたそうですが）

Ｅテーブル　発表者　髙梨昇一郎（野田ロータリークラブ）

①私共が週１度例会に出席するのは、まず、元気な仲間・親しい人・尊敬出来る人、そう言う方々と会える喜びを味合うためであります。特に、楽しくなければロータリーの意味は、ございませんし、そう言う意味合いの中で人と人とのコミュニケーションの場としてロータリーの例会が如何に大切な場所なのかということを感じます。
②次に、ロータリーの例会は、反省の場であるという側面があります。４つのテストに照らし合わせて１週間の言動を反省してみる。これには、１週間というサイクルが最適であります。
③３番目にロータリー活動は、自己研鑽の場であり、生涯学習の場であり、修行の場であるという位置づけがあります。そういった側面から自分を磨くためにはどうするのか、１週間に１遍きちっと考える時間を持つ。また、多くの人と交わって
、会員同士交わり会話することで自分自身を律し、高めていくと言うことがあります。

総評挨拶

第１３分区ガバナー補佐

髙梨　茂

本日の第１３分区の情報研究会各テーブルごとの発表ありがとうございました。今回の情報研究会にパストガバナー土屋亮平地区職業奉仕委員会委員長においでいただきましたので、最後の総評をお願いいたしました。

《土屋亮平地区職業奉仕委員会委員長の総評》

本当にありがとうございました。

そのお話の中でロータリーの基本的知識がロータリーの友８月号に書かれているので、会員の勉強に良いのではとのお話がありました。一部を下記に引用させていただきました。

また、戦後物資の乏しい時代に、野田市のキッコーマン株式会社が醤油醸造の新しい技術を開発し、本来なら特許を取るところを醤油醸造業界に新しいその技術を公開した。醤油醸造業界全体の発展があって初めてキッコーマン株式会社の成長もあるという考えからで、これがまさしく職業奉仕であるとのお言葉がありました。

ロータリーの友８月号よりの抜粋

◎ロータリーの誕生とその成長

２０世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道徳の欠如が目につくようになっていました。ちょうどそのころ、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人３人と語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。ロータリーとは、集会を各自の事務所持ち回りで順番に開くことから名付けられたものです。

こうして１９０５年２月２３日にシカゴロータリークラブが誕生しました。

それからは、志を同じくするクラブがつぎつぎ各地に生まれて、国境を超え、今では２００以上の国と地域に広がり、クラブ数３３，８５５、会員総数１，２２４，３８４人（２０１０年４月３０日ＲＩ公式発表）に達しています。

そして、これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。

このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。

◎日本のロータリー

わが国最初のロータリークラブは、１９２０（大正９）年１０月２０日に創立された東京ロータリークラブで、翌１９２１年４月１日に、世界で８５５番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟が承認されました。

日本でのロータリークラブ設立については、ポール・ハリスの片腕としてロータリーの組織をつくり、海外拡大に情熱的に取り組んだ初代事務総長チェスリー・ペリーと、創立の準備に奔走した米山梅吉、福島喜三次などの先達の功を忘れることができません。

その後、日本のロータリーは、第２次世界大戦の波に洗われて、１９４０年に国際ロータリーから脱退します。戦後１９４９年３月になって、再び復帰加盟しますが、この時、復帰に尽力してくれたのが国際ロータリーの第３代事務総長ジョージ・ミーンズでした。

その後の日本におけるロータリーの拡大発展は目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける地位も不動のものになりました。現在、日本全体でのクラブ数は２，３０２、会員数９２，１２４（２０１０年５月末現在）となっています。

◎会員の義務（例会の出席）

ロータリーは、まず「例会の出席から」といわれています。標準ロータリー定款第９条に、出席に関して書かれていますが、その第１節には、「各会員は本クラブの例会

に出席するべきものとする。（後略）」とあります。

例会への出席は、ロータリークラブの会員の義務の１つになっています。例会は基本的に週１回開催されます。やむを得ない事情により欠席をした場合は、その例会の前後１４日以内に、ほかのロータリークラブの例会やそのほかのロータリークラブ定款に定められている、他の会合に出席することによって、欠席をメークアップすることができます。年度の下半期において、メークアップを含むクラブ例会出席率が５０％に達していない場合、所属クラブの例会総数のうち少なくとも３０％に出席していない場合、クラブ理事会が正当かつ十分な理由があると認めなければ、会員身分が終結することがあります。

日本の多くのクラブは、昼の１２時３０分～１３時３０分に例会を開催しています。朝または夕方に例会を開催しているクラブもあります。例会では、食事を共にし、その間、自分たちの職業や趣味などの情報交換をして、親睦や友情を深めるとともに、会員やゲストによるスピーチ（卓話）を聞き、ビジネスや社会情勢の最新情報や、文化、歴史、科学技術などについての知識を深めたり、クラブの奉仕活動についてのヒントを得たりしています。

日本国内各クラブの例会場所・時間は、『ロータリーの友』３月号と９月号の折り込み、『ロータリージャパン』のホームページwww.rotary.or.jpで調べることができます。

◎日本のロータリーの先駆者

米山梅吉（よねやま　うめきち）（１８６８～１９４６）

日本のロータリーの創始者。１９１８年の渡米中、ダラスロータリークラブ会員の福島喜三次の紹介により、ロータリークラブと出合いました。帰国後の１９２０年１０月、米山梅吉は東京ＲＣを創立し会長に就任しました。これが、日本のロータリークラブの第１歩となりました。１９２６－１９２７年度には日本人初のＲＩ理事に就任。１９２８－３１年度第７０地区（当時）ガバナーを務めています。

2010’11 年度「ロータリー情報研究会」開催趣意書
10’11 年度地区職業奉仕委員会
クラブ研修委員長　海寶勘一(千葉西ＲＣ)

１・織田ガバナーの理念である、「ロータリーの綱領」を基本として、職業に誇りと価値を求めて、高潔な職業人の集まりであるべきクラブ例会の重要性を認識するために、１４分区ごとに《ロータリー情報研究会》を開催企画してみました。
《ロータリー情報研究会》ではクラブ例会が、和気藹々と学び愛、感化し愛、敬愛できる場であることを、改めて認識できるように、地区委員卓話を通して、グループ討議を通して《職業人として、毎例会出席する意義と重要性》を熱く語り合いできることを期待しております。
１・クラブでの５大奉仕活動ですが、形骸化されている社会奉仕と国際奉仕活動が、前年踏襲型の新鮮味に欠ける、奉仕活動に低迷しているように見受けられます。
織田ガバナー年度の最枢要事業である、職業奉仕活動の理念を啓蒙することから、クラブ運営の要となるような委員会活動に結び付けられるように、高潔な職業人として、職業奉仕理念の高揚が図れることを期待しております。

１・クラブ例会も慣習化されて、とかく親睦活動に傾注されていますが、日本のロータリーの創始者である米山梅吉翁の言葉にあります、「毎週のクラブ例会は、人生最高の修練の場である」ことを目指して、個々の会員が優越感や期待感をもって、切磋琢磨しあえる活き活きと例会に出席できるように、委員会活動と卓話を通して伝えてみたいものです。

１・慣習化されてしまっているクラブ例会の意義を、地区委員卓話やグループ討議を通して、ロータリーの真髄の喜びを味わうことが、《ロータリー情報研究会》のグループ討議である、グループ・ディスカッションの中から享受してほしく思います。

１・《ロータリー情報研究会》の運営なのですが、ガバナー補佐の皆様の絶大なご支援を仰ぎながら、主宰がガバナー補佐輩出のホスト・クラブ会長として、手作りの情報研究会運営がされるなかからは、地区委員が卓話や研修リーダーになることで、地区委員自身のボトムアップが図れますし、委員出身クラブにも還元できることから、クラブ例会に一層の活性化が浸透できることを期待しております。

尚、卓話やグループ討議の際には、地区委員は決して指導者ではありませんので、皆様との語り合いの中から、ロータリー情報の伝達とか、質問への後日解答等のお手伝いをできるように、あくまでも仲間の一人としてアドバイザー役に徹することをご理解願います。